

## 第13回全日本スプリント選手権大会の開催について

2021年2月6日  
JOA スプリント委員会  
大会イベントアドバイザー 愛場庸雅

2021年2月20日 奈良県 馬見丘陵公園 にて予定されている第13回全日本スプリント選手権大会の開催について、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、一部の都府県で緊急事態宣言が継続されていることを受け、阪神奈大会実行委員会とも相談した結果、現時点では開催について以下のような判断をしています。

### ○原則

阪神奈大会 Day1 が開催可能であれば、第13回全日本スプリント選手権大会も併設して行うこととします。

阪神奈大会 Day1 が開催できない状況とは、現時点で以下のように考えます。

- 1) 開催日の時点で奈良県に緊急事態宣言が出されている場合
- 2) 地元の自治体、公園管理者から、イベント中止の要請があった場合。
- 3) 運営主体である、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学の大学当局から、課外活動の中止の指示があった場合。

阪神奈大会 Day1 が開催できない場合は、全日本選手権大会も開催しないこととします。

### ○大会開催の背景

可能な限り全日本選手権を開催するように考えているのには、以下のような理由があります。

- ・2020年度全日本選手権という、選手にとっても JOA にとっても重要な大会であること。
- ・すでに、12月予定のイベントを一旦延期しており、また他に代替大会を立てるのは困難であること。
- ・主たる運営者は学生であり、年度の替わる時期での延期という選択が困難であること。
- ・他のスポーツも重要な大会開催は行われており、5000人以下であれば、スポーツ大会そのものが禁止されているわけではないこと。
- ・現時点では奈良県には緊急事態宣言は出ておらず、地元自治体、公園管理者からも特段の指示はないこと。

・2020年11月に行われた、全日本リレー、全日本ミドル・ロング、といったより大規模な大会を、感染対策を講じた上で無事開催できたという実績があること。

#### ○感染リスクについての評価

本大会がコロナウイルス感染の原因になる可能性については、以下のような状況から、予防対策をとれば極めて低いと思われ、日常生活以上の感染リスクが発生することはないと考えられます。

- ・会場は、広い野外（大テントとその周辺広場）であり、換気の問題はない。
- ・総エントリー数は287名で、観客はほぼいない。参加者+運営者の総数320名くらいで行うことになるが、計算上1人/4㎡（個人の間隔2m）なら1280㎡=40m×32mの広さがあればよいことになり、これ以上のスペースは確保できている。
- ・一般的に「濃厚接触者」とは、「1m以内の距離で、マスクをしない状態で、15分以上」とされており、この条件はマスク等をすれば十分避けられる。
- ・競技は個人で走るものであり、1分間隔の時間差スタートなので、競技中に密集することはない。
- ・スタート地区、待機場所、およびフィニッシュ地区についても広い面積が確保できている。また、各地区の距離は離れており、（決勝のフィニッシュを除いて会場とは離れた場所にある）誘導の人の流れをスムーズにすることで、密集は避けられる。
- ・会場への来場手段として、自家用車利用もしくは近鉄池部駅からの徒歩来場を指示しており、参加者人数からみて公共交通機関での密を発生させることはない。

#### ○対策

しかしながら、無症状者であっても発症の2～3日前から感染力があるといわれており、また市中感染（感染源不明）も増加していることから、十分な感染予防策が必要になります。実行委員会としては、参加者並びにスタッフに対して、以下のような感染対策を考えています。

- ・通常の感染予防策の徹底（マスク、フェイスシールド、手袋、手指衛生、など）
- ・来場時の検温等による体調チェック
- ・フィニッシュ地区でのマスクの配布

- ・密を避ける会場（スタート地区なども含めて）設営、参加者フローの構築
- ・速報、地図返却、表彰などでの密を避けるスムーズな運営の工夫
- ・参加者へ、事前のプログラムや当日のアナウンスで感染対策の呼びかけ

#### ○大会参加についての様々な考え方

この時期に大会を開催することについては、次のように様々な考え方をお持ちの方がおられることとされます。

- ・緊急事態宣言が出、全国的に感染が広がっている事態のもとでは、国民のモラルとして移動は自粛すべきである。
- ・参加したいのはやまやまだが、外出することが社会から非難を浴びる可能性がある。
- ・万一その後感染したら、周囲の人々やオリエンテーリング愛好家の皆さんに迷惑をかけることになる。
- ・外出による感染の可能性そのものが怖い。

また、地元の方にとっても、感染多発地域から多くの人々が来るということは感情的に受け入れ難いことも考えられます。

そのため、現在次のような対応を検討中です。

- ・自らのポリシー、自身の体調不良、あるいは家族の感染不安などで、エントリーはしたものの参加を自粛するという方には、申し出に応じて参加費を返金する。ただし、大会運営の財政は、補助金などはなくかなり厳しい状態です。すでにかかっている費用もありますので、返金できたとしても一部になる可能性があります。
- ・他の公園利用者に不快感を与えないように、派手な演出等は避ける。

#### ○大会参加者へのお願い

以上のような状況を踏まえた上で、参加者の皆さんには以下のようなご協力を改めてお願い申し上げます。

- ・マスク、手洗いなどの標準的な予防策を励行してください。
- ・会場到着時の検温や問診にご協力ください。
- ・わずかでも体調不良があったり、職場や家族等で濃厚接触をした発症者がいるときは参加をご遠慮ください。
- ・競技中（スタート枠からフィニッシュまで）以外はマスク等の着用をお願いします。

- ・競技中のマスク着用は義務とはしませんが、ほかの公園利用者には不安、不快に感じる方がおられる場合もあることをふまえて行動してください。
- ・競技中（観戦や待機中も含めて）に、大声を出したり、唾を吐くなどの行為はやめてください。
- ・競技中に、くしゃみや咳が出る場合もあるかと思いますが、ハンカチなどを携帯して口を覆うようにしてください。
- ・競技終了後も冷えたりすると感染を誘発する可能性がありますので、自己の衛生管理～風邪をひかないこと、に十分ご留意ください。
- ・来場のための交通手段としては、密を避けた少人数での自家用車利用を推奨します。公共交通機関をご利用の場合は、鉄道をご利用いただき、路線バスの利用はご遠慮ください。
- ・大会後も含めて、会話を伴う長時間の飲食は避けてください。

大会を開催することについては、「この時期にイベントは慎むべきだ」という考え方もあれば、「この時期だからこそ野外で行うオリエンテーリングはその真価を発揮すべきだ」というように、様々な意見があるかと思いますが、一方で、緊急事態宣言が出ているかいないかというのは政策面からみた一つの目安に過ぎず、その有無にかかわらず感染予防対策をしっかりと行うべきであることに変わりはありません。参加者、関係者の皆様におかれましては、多様な価値観と考え方があることをご理解いただき、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。